

JAきたそらちにおける農福連携の推進体制 ～JA主導によるマッチングの取組～

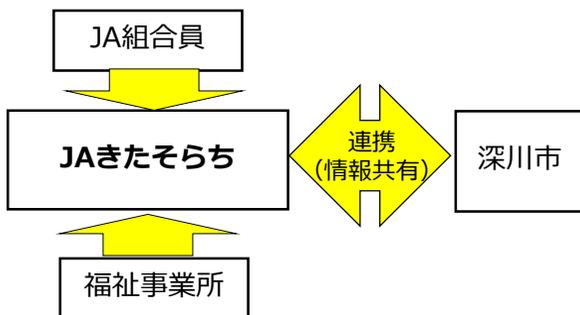
◎取組の経緯（きっかけ）

地域の農業従事者の高齢化や後継者不足、長年雇用していたパートの高齢化や派遣業者の賃金も年々高騰しており、人材確保に苦慮していた。

このような中で、課題解決に向けた対策を検討し、農繁期の労働力不足に対応した短期雇用の一つとして農福連携に取り組むことになった。

農福連携の相談、マッチングについては、JAが主体となり深川市農政課と連携して行う体制となっている。

<JAきたそらちでの農福連携マッチング相談体制>



◎取組内容

▶マッチングに対する取組

JAが農福連携の相談窓口となり、組合員と福祉事業所とのマッチングを進めている。

◆ 農作業依頼シートの提出

組合員から農作業依頼シートの提出を受け、まずはJA職員が作業内容と現場を確認した後、福祉事業所職員を連れて現場を再確認の上、マッチング。

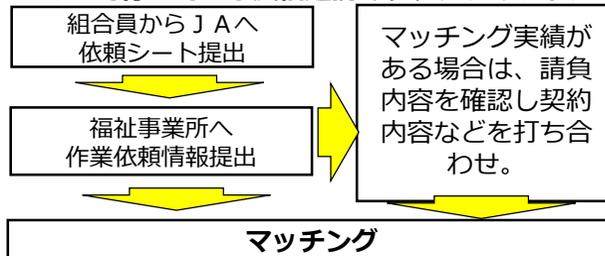
◆ 契約のサポート

契約書の作成についてもJAがサポート。

◆ 就労時間の確認・支払い

実施後、就労時間確認のため、事業所はJAに請求書を送付、JAは組合員口座より支払い。

<JAで行っている農福連携マッチングの流れ>



▶作業マニュアルの作成

農業現場からの声を取り入れ、JA・組合員が一体となって作業マニュアルを作成した。

地域の概略



- 位置
- 農業データ ○福祉データ
- | | |
|--------|---------------|
| 経営形態 | B型福祉事業所 |
| 水稲、花き、 | 5か所 |
| 野菜等 | (深川市4、雨竜町1) |
| | ※令和4年12月31日現在 |



畜産農家 牛飼料の配合風景

◎成果と課題 □：成果、■：課題

- 組合員の手間となる、契約や工賃支払い、日程調整、翌月の作業日程、内容をJAが確認しシフトを作成することで、組合員の負担を軽減している。
- 令和元年～4年の間に、組合員と福祉事業所から合計30件相談があり、その内27件がマッチング成立となった。
- 現在、12月～2月は、組合員、JA施設にも連携できる仕事がないため、冬場の仕事の確保が必要。
- 事業所が農業を知らないことや施設外就労の利用者と支援員数の制約から、協力事業所が増えない。